いきものログ講習会
“霧ヶ谷湿原で自分だけの生きもの観察ノートを作ろう！”報告書

『ひろしま県民いきもの調査隊の皆さんと生きもの観察ノート作成に挑戦しました』

開　催　日：平成２９年１０月１日(日) １０：００～１４：３０
場　　所：広島県北広島町東八幡原（山麓庵・霧ケ谷湿原）
講　　師：〔いきものログ〕　浜田 拓（いきものログ 事務局）
〔現 地 観 察〕　白川 勝信（芸北 高原の自然館　主任学芸員）
大竹 邦暁（ひろしま県民いきもの調査 事務局）
主　　催：広島県 環境県民局 自然環境課

秋の訪れが感じられる 10 月初め，北広島町の霧ヶ谷湿原を中心としたエリアで『いきものログ講習会』が開催され，小学生～80 代までの老若男女１５名が参加しました。

『いきものログ』は，自分で見つけた生物の観察記録を，インターネットを利用して環境省が管理するデータベースに報告・蓄積するシステムです。自分だけの観察ノートが出来るだけでなく，報告された情報は一部が公開され，また，グループでシェアすることも出来ます。広島県は，このシステムを県内の生物多様性情報を集める取り組み『ひろしま県民いきもの調査』に活用しています。今回，お集まりの皆さんは，講習会の後，『いきもの調査隊』のメンバーとして活躍される方々です。

朝 10 時前に，芸北 高原の自然館の隣の古民家：山麓庵に集まると，あまりの寒さにストーブが登場していました。みんなの簡単な自己紹介が終わる頃には部屋は暖まり，スライドを使って浜田さんからレクチャー開始です。まず，全員が生物の情報の報告準備を行いました。順に，スマートフォンを使った『いきものログ』へのユーザー登録，『ひろしま県民いきもの調査隊』へのメンバー登録，最後に専用アプリのダウンロードとログインです。古民家の畳部屋にはそぐわない横文字が飛び交います。小さい画面で英数字を打ち込むのには苦労しましたが，北広島町の先進のネット環境とスマホの強力なモバイル機能に加え，手慣れた参加者のご協力も得て，若干時間を押しながらも全員の準備が終わりました。

環境省“いきものログ”トップページ

いきものログ事務局 浜田さんからの
レクチャーの様子

アプリを使ったメンバー登録や設定を
スタッフとともにこなしていきます。

いきもの情報の報告のレクチャーでは，途中で幾つか質問があり，例えば，「希少種を見つけた場所の公開は？」といった問いについて，浜田さんから「希少種の詳しい確認場所は公開されません」など，逐一回答があり，『広島県の貴重ないきものの重要な情報を集める』意識が共有されました。

参加者のなかには，この講習会をきっかけにガラケーからスマホに買い替えて参加された方もおられ，スマホやアプリの操作方法から貴重種の情報の扱い方まで含めた，濃厚な室内実習となりました。

フィールドに出る前には準備運動！

昼休みをはさんで，いよいよ野外実習に挑戦です。

講師の白川学芸員と大竹さんの案内で，くさもみじの霧ヶ谷湿原を歩きました。

まずは出発地の二川キャンプ場で『ツタウルシ』の観察からスタートです。紅葉がはじまっているツタウルシはとてもきれいです。「小葉が３枚で，下の２枚は対生」といった見分け方の説明とあわせて，葉に触れるとウルシオールという毒成分のため炎症を起こすので，「観察時には素手で触れないように！」との注意指導もあり，いざ，観察の実践です。

いよいよ観察スタート！
『ツタウルシ』から
撮影＆報告に挑戦!!

ツタウルシの葉に触れないよう注意しながら，特徴をとらえるように撮影し，その場でスマートフォンを操作しながら報告です。「できた！」「あれ？ログインできない」といった声があがりながら，ひとまず皆で『ツタウルシ』の登録は完了です。

その後は，ススキとオギの花の違いや，タンナトリカブトとその仲間との見分け方，アケボノソウの花びらの蜜腺，手触りで名前の由来がわかるウナギツカミなど植物を中心に観察・報告しました。

講師の解説を聞きながら，
撮影と報告を繰り返します。

たくさんの秋の花に目移りし，なかなか前に進みませんでしたが，講師の話を聞きながら，“特徴をとらえて撮影，すぐさま報告”の繰り返しで，最後に，白川学芸員から，生物多様性の情報を自ら発信し引き継いでいくことの大切さについてお話しいただき，実習を終えました。

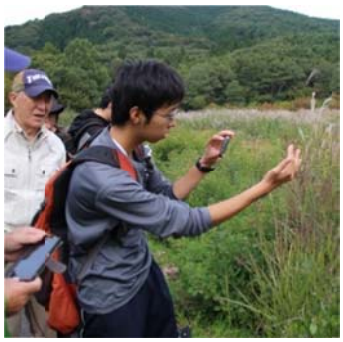
～～観察会当日にいきものログへ報告された種～～

アキノキリンソウ，アケボノソウ，オオバコ，オタカラコウ，キセルアザミ，クロモジ，コシアブラ，ゴマナ，シラヒゲソウ，タンナトリカブト，ツタウルシ，ヌマガヤ，ビッチュウフウロ，ブタナ，マツムシソウ，ヤマウルシ
ニホンアマガエル，ニホンカナヘビ，ノシメトンボ

（以上 植物 16 種，動物３種，のべ 38 件）

自分の観察記録が残り，地図にまとめて表示して眺めることは，フィールドワークの醍醐味のひとつだと思います。また，自分の観察記録が地域の生物多様性の保全に役立つことも，励みになるのではないでしょうか。

参加者からは，「自分の地域でも講習が受けたい」，「小学校の PTA などで実施したらどうか」といったフィールドを変えての開催を望む声が聞こえました。

記録する楽しさを通じて，いきもののデータが集まり，いきものに触れたり，自然に関わる楽しみが増えたように感じた，いきものログ講習会でした。

〔いきものログ初体験のスタッフ〕